

## 部落解放研究関係文献目録

(一九八四年四月～六月)

## 【現状】

- 野間口地区部落実態調査推進委員会『大阪部落実態調査野間口地区報告書』(同上、4月)
- 富田林部落実態調査推進委員会『大阪部落実態調査富田林地区報告書』(同上、4月)
- 東上高志「新連載・講座やさしい部落問題1ーかわったものとかわらないもの」その(一)都市部落」(『部落』四四三号、4月)
- 部落解放加島地区総合計画実行委員会『加島部落の実態ー大阪部落実態調査加島地区報告書』(同上、5月)
- 東上高志「新連載・講座やさしい部落問題2ーかわったものとかわらないもの」その(二)農村部落」(『部落』四四四号、5月)
- 日本共産党中央委員会「4国民各層の状態と闘争ー8未解放部落住民」(『政治経済総覧一九八四』所収、〈前衛臨時増刊〉、5月)
- 内田雄造「不良住宅地区の環境整備ー同和地区の場合」

## 【行政】

- (『新建築学大系19市街地整備計画』所収、彰国社、5月)
- 部落解放同盟大阪府連合会『部落差別ー写真で見えるその現実』(同上、6月)
- 通商産業大臣官庁調査統計部『雑貨統計年報(皮革編) 昭和58年』(通商産業調査会、6月)
- 山名伸作「大分県と栃木県の同和地区現地研修記」(『同和問題研究』七号、大阪市立大学同和問題研究室、1984年3月)
- 村越末男「鹿児島県に於ける同和問題覚書」(同右)
- 磯村英二「同和問題と地方公務員(第4回)ー地域歴史のルーツ」(『地方自治職員研修』二二二号、4月)
- 〈神戸市の個人施策の見直しにあたって〉
- (『月刊部落問題』九〇号、5月)
- 編集部「神戸市の個人施策の見直しにあたって」(資料)「同和関係個人給付的事業の今後の方向について」藤岡祥三「北九州市の同和对策審議会答申について」
- (『解放の道』〈理論・政策・資料版〉四号、5月)

桜井正志「埼玉県における昭和59年度同和行政改革の実施について」(『部落問題ー調査と研究』五〇号、6月)

大阪府同和对策審議会「大阪府における今後の同和行政について」(答申)『(同上、1984年2月)

内海 誠「埼玉県が団体対応型同和行政転換に着手ー県同和行政改革案にたいする私見」

## 【運動】

- (『解放の道』〈理論・政策・資料版〉二号、1984年3月)
- 和島岩吉「狭山事件と再審」(部落解放研究所、4月)
- 全国部落解放運動連合会「全解連第13回大会決定集」(同上、4月)
- 全解連・大阪府部落解放運動連合会「国民的融合をめざしてー大阪府連の「見解」論文集」(同上、4月)
- (資料)「新法時代と今後の同和行政ー部落解放行政推進要求中央集会基調」(『部落解放』二二二号、4月)
- 部落解放同盟愛知県連合会「世界人権宣言35周年愛知県での取り組み」(同右)
- 〈部落解放同盟第40回全国大会報告集〉
- (『部落解放』二二三号、4月)
- 〈血痕はなかった〉
- (『狭山差別裁判』二二四号、4月)
- 丹波正史「(動向)運動・全解連が第十三回大会開く」(『部落』四四三号、4月)

- 亀田順一「〈連載〉八鹿・朝来事件控訴審にむけて」(1)「(『月刊部落問題』八九号、4月)
- 雑元昌弘「最高裁決定を真逆に控えた狭山再審闘争の現局面」(『同時代批評』十号、4月)
- 野間 宏「狭山裁判第九回一異議申立の棄却決定批判」(35)「(『世界』四六一号、4月)
- 村崎勝利「今年の全解連方針の特徴ー一九八四年度一般運動方針学習のために」
- (『解放の道』〈理論・政策・資料版〉三号、4月)
- 田上和儀「一九八四年度同和对策関係予算について」(同右)
- 岡掛吉郎「国民融合実現をめざしてー全解連運動と生活相談活動」(同右)
- 部落解放同盟兵庫県連合会「日共の差別キャンペーンを糾弾するー篠山町差別啓書で犠牲者」(同上、5月)
- 部落解放地方共闘全国連絡会議「部落解放地方共闘第6回全国交流会ー各都府県共闘活動報告資料」(同上、5月)
- 全国部落解放運動連合会「第13回部落問題全国研究会資料」(同上、5月)
- 「同和」対策事業特別措置法強化改正要求国民運動中央実行委員会「部落解放第2次中央集会」(同上、5月)
- 部落解放同盟中央本部「部落解放第15回全国高校奨学生集会報告集」(同上、5月)
- 部落解放子ども会大阪連絡協議会「狭山事件報道記事集」part 3(同上、5月)

「あなたは目をそらしていないか」編集委員会』あなたは目をそらしていないかーあいつ々差別事件東淀川版」  
 (差別落書事件区民対策会議、5月)  
 世界人権宣言大分連絡会議『世界人権宣言大分連絡会議結成総会』(同上、5月)  
 解放新聞社大阪支局『みんながつくる』(1983・4)1984・3(同上、5月)

上杉佐一郎『図書紹介/和島岩音編『狭山事件と再審』』  
 (『解放教育』一七九号、5月)  
 難元昌弘『狭山事件でまたしても新証言』—五十嵐元県警警察医『逆さ吊りはありえない』—(『部落解放』二二四号、5月)  
 上田卓三『東議員の『妨害野次』をヤジリ返す』(同右)

橋本 要『地域の共闘会議に賭ける—部落解放同盟神奈川県連と労働者の連帯』(同右)  
 『犯罪報道』『狭山差別裁判』二二五号、5月)  
 亀田順一『的はずれの同和研修がもたらしたものの—兵庫県篠山町差別事件から—』(『部落』四四四号、5月)  
 木村正史『大分大学差別図書事件』をめぐって』(同右)

亀田順一『<連載>八鹿・朝来事件控訴審にむけて』(2)「  
 (『月刊部落問題』九〇号、5月)  
 窪田 学『本音で語る部落問題学習会—和歌山・紀北』  
 (『解放の道』<理論・政策・資料版>四号、5月)  
 野間 宏『狭山裁判第百回—異議申立の棄却決定批判』(36)「  
 (『世界』四六二号、5月)

校井正志『埼玉県における』解同』企業の実態」  
 北野重一『わかき国体を利用した土地ころがし—御所市国体ラグビー用地不正事件—』  
 吉原 稔『上田金脈問題—北九州市の場合』  
 瀬川負太郎『公共事業と部落問題—北九州市の場合』  
 『特集』『篠山町』差別落書き』事件」  
 (『月刊部落問題』九一号、6月)

編集部『篠山町』差別落書き』事件の真相」  
 村上 保『事件の真相と今後の課題』  
 亀田順一『<連載>八鹿・朝来事件控訴審にむけて』(3) (同右)  
 『差別語言い換え・禁句集』  
 (『朝日ジャーナル』一三二四号、6月)  
 中村 謙『本質論そっちのけの』転ばぬ先の杖』  
 山中多美男『『使わなきゃいんだらう』では困る』(インタビュー)「  
 田中克彦』<差別語運動考>—もっと森を見よう」  
 上田卓三』東議員の『妨害野次』をヤジリ返す」  
 (『社会評論』四八号、6月)  
 『特集』『くたばれ』教育臨調』「  
 (『福祉労働』二三号、6月)

(資料)「(『判例紹介・特報』八鹿高校等事件第一審判決—差別糾弾を目的とする監禁行為等につき可罰的違法性を阻却しないとした事件」(『判例タイムス』五二三号、6月)  
 『磯村英一』『いま』差別語糾弾』の意味を問う—地対協意見具申が

同和地区人材雇用開発センター』同和問題研修と雇用問題研究会記録』(同上、6月)  
 部落解放同盟大分県連合会『部落解放九州研究会分科会報告書 第4回』(同上、6月)  
 部落解放同盟九州地方協議会『部落解放九州研究会 第4回』(同上、6月)  
 解放新聞社『解放新聞縮刷版(第14巻)』(同上、6月)  
 (グラビア)「人権展開かれる」  
 (『部落解放』二二五号、6月)

北口末広『差別の敵しと訴えた大阪』人権展』(同右)  
 部落解放同盟中央本部『兵庫県篠山町差別落書き自殺事件にたいする声明』(同右)  
 部落解放同盟兵庫県連合会『日共』『全解連』の差別キャンペーンで自殺者が』(同右)  
 川瀬俊治『天理教』陽気』差別事件—問われる宗教者の姿勢』(同右)

(資料)「差別事件・毎日新聞社」  
 (『社会啓発情報』一九号、6月)  
 『特集』『とりもどすまで闘うぞ』  
 (『狭山差別裁判』二二六号、6月)  
 『特集』『公共事業と部落問題—各地からの報告』  
 (『部落』四四五号、6月)

山本敬賢『公共事業と住民自治—高知県吉川村汚職事件から—』  
 (『世界』四六三号、6月)

目指すもの」(『朝日ジャーナル』一三二七号、6月)  
 野間 宏『狭山裁判第一〇一回—異議申立の棄却決定批判』(37)「  
 (『世界』四六三号、6月)  
 日高六郎』狭山判決の意味論的批判』(『短期集中』<連載>『狭山裁判と科学』その後・3)「(『技術と人間』一三〇号、6月)  
 部落解放中央共闘会議『部落解放中央共闘会議第八回総会議案書』(同上、1984年2月)  
 部落解放同盟中央婦人対策部『部落解放第29回全国婦人集会』(部落解放同盟中央本部、1984年3月)  
 部落解放同盟大阪府連合会婦人部『部落解放第29回全国婦人集会大阪活動報告集』(同上、1984年3月)

部落解放同盟中央婦人対策部『涙を怒りにかえて—私の歩んできた道』(解放出版社、1984年3月)  
 成沢栄寿』タイム社の『模索する大國日本』とその部落問題記述』(『国民融合通信』一一八号、1984年3月)

【理論】

山本 登』大都市社会の階層構成と社会移動』(山本登著作集2) (明石書店、4月)  
 山本 登』社会階級と社会成層』(山本登著作集1) (明石書店、4月)  
 杉之原寿一』部落差別意識の研究』(杉之原寿一部落問題著作集第7巻) (兵庫部落問題研究所、5月)  
 『小特集』『部落解放第六回研究会全体報告』

『部落解放研究』三九号、5月)  
大賀正行「一九八四年の部落解放研究の課題―第六回研究員  
会議研究部長まとめ―  
会議研究部長まとめ―  
渡辺俊雄「部落解放研究の現状と課題―国民融合論批判とか  
かわって―」

編集部「部落解放研究文献目録」(同右)

芝田進午「社会学と部落差別研究―杉之原寿一著『現代部落差別  
の研究』を読む」(『部落問題研究』七八号、5月)

小森龍邦「社会の変革と人間のありよう―解放を担う人間像の完  
成をめざして」(部落解放同盟向島支部青年部、6月)

吉村 励「被差別部落と労働問題」(『同和問題研究』七号、大  
阪市立大学同和問題研究室、1984年3月)

中川喜代子「戸籍簿調査を通じてみた被差別部落の人口現象―福  
岡県田川郡赤池町の場合」(同右)

(資料)「山本登先生略歴・著書・主要論文等」(同右)

【解放教育】

川向秀武・中野陸夫編『同和教育の計画と展開』(『教育学研修講  
座12』(第一法規出版、4月)

徳島県中学校同和教育研究会「わたしの願い」(同上、4月)

徳島県小学校同和教育研究会「ひかり 昭和59年度版」1ねん  
6ねん(同上、4月)

徳島県高等学校同和教育研究会「じんけん―高等学校同和教育学  
習資料集」(同上、4月)

佐古田好一「へ綴方」同和教育と生活綴方」

(『月刊の子も伸びる』八四号、4月)

石田真一「連載・部落の青春―土の教育」(同右)

東上高志「講座・同和教育の実践 同和教育―その継承と発  
展」(同右)

坂口弘士「人権学習にたつ單元づくりの方法―小学3年・校区学  
習」(『U町に生きる』を通して)

(『社会科教育』二五五号、4月)

門田秀夫『同和教育の創造』(明石書店、5月)

奈良県同和教育実践会『奈良県同和教育実践会総会 一九八四年  
度』(同上、5月)

香川県同和教育研究協議会『昭和59年度総会資料 第25回』

(同上、5月)

徳島県同和教育協議会『徳島県同和教育協議会総会資料 昭和  
59年度』(同上、5月)

大阪同和保育連絡協議会『大阪同和保育連絡協議会総会 第16  
回』(同上、5月)

同和教育における授業と教材研究協議会『「新・はぐるま」の授  
業―教材研究と実践の記録』第一集(部落問題研究所、5月)

岸本裕史「読む力・書く力を育てる」(講座・岸本裕史の教育方  
法②) (部落問題研究所、5月)

近畿大学同和教育研究会『私たちが学びとった被差別部落の現実  
II』(フイールドワーク報告集⑧) (同上、5月)

大阪府私立学校同和教育研究会・進路保障研究会委員会『被差別状  
況下生徒の進路アンケート集約―進路のあり方、およびその問  
題点』(同上、5月)

愛媛県同和教育協議会『愛媛県同和教育協議会第17回定期総会議  
案集』(同上、5月)

《特集》「解放教育研究の動向と課題」  
(『部落解放研究』三九号、5月)

《特集》「解放教育研究の動向と課題」への批判」  
鈴木祥蔵「杉尾論文『解放保育論批判』への批判」  
中島明子「子ども『荒れ』をめぐる状況と解放教育実践」  
中村清一「大学における同和教育の現状と課題」  
研究所子ども会部会「部落解放子ども会の現状と課題」  
前川 実「新法制定後の『同和教育』研究の動向」  
《特集》「授業が生きたとき」(『解放教育』一七九号、5月)  
田中欣和「へふつうの授業」を問い直すために」  
岩手・大野第一中学校「学校給食の改善をめざして」  
岡 修「識字に学ぶ」  
中島みどり「子どもと歌う人間讃歌」  
鈴木瑞穂「教室をこえた授業」  
吉田小恵子「カメラ」のむこうに何が見えたか」  
中山真也「作文『うさぎ』をめぐる」  
三浦信子「すてた大根」  
安藤洋美「量の四段階指導の意味」  
鈴木祥蔵・山中多美男・岩井貞雄・寺澤亮一・横田三郎「誌上

磯村英一「教育改革と同和問題」

(『部落解放』二二二号、4月)

《特集》「学級づくり再入門」(『解放教育』一七八号、4月)

《学級という世界》

保坂展人「子どものなかの教師像はいま」

大野里子「先生が小さかったころ」

堀 勝子「私と学校」

末田生造「谷間はより深く」

原田伊津雄「ポインタを超えるたくましさ」

篠木敬子「学級づくりの情景」

室生中学校教師集団「文えあつもの」

助宮啓介「朝鮮人じゃけえ 朝鮮人学校へ行くんよ」  
研本洋幸「夜間中学日誌」

中村拓三「誌上シンポジウム―第二次教育制度検討委員会最終報  
告によせて―『現代日本の教育改革』を検討する①基調提案」  
(同右)

中道保和「教育研究の自由任役を許さず―神戸教研『人権教育』  
分科会報告」(『部落』四四三号、4月)

《特集》「教研全国集会報告」  
(『月刊部落問題』八九号、4月)

大同啓五「人権教育」の推進のために」  
永井哲夫「全国教研の変質策動は失敗」

村上 保「第18分科会『人権教育』の概括と課題」  
三枝正雄「学校を民主主義と人権の岩に」

シンポジウム——第二次教育制度検討委員会最終報告によせて  
——『現代日本の教育改革』を検討する② 前回の提案に対する意見』(同右)

《特集》『同和』保育——親と母が一つになって』  
《部落解放》二二四号、5月)

鈴木祥蔵『同和』保育運動—その成果と課題』

松崎 一「子どもたちと歩んで二十年」

部落解放東池地区乳幼児守る会「部落問題の語れる親に」

神戸市長田区・乳幼児保育守る会「座談会・子どものこと放  
つとかれへん—保育守る会を結成して」

明神妙子「雨はいややけんど、お母ちゃんが家におるき、え  
ご」

一色艶子「子どもの姿をみつめることから—職員集団がどう  
変わってきたか」

《特集》『今日にふさわしい同和教育の実践を』

(『部落』四四四号、5月)

東上高志「同和教育の転換点に立って—いま同和教育で考え  
ぬばならぬこと—」

佐古田好一「現実を愛するために、現実から学ぶ」

長田大三郎「同和教育における文学の授業—文学読本『はぐ  
るま』のすすめ—」

奥西一夫「小学校の同和教育と社会科」

杉山明男「生活指導」

大同啓五「京都における公立高校制度改革問題と同和教育研究の

課題」(同右)

《特集》『教育改革』と「同和教育」

(『同和教育運動』二五号、5月)

大槻 健「今日の教育改革をめざすもの」

内堀隆夫・田中省司「子どもたちに自立の力を」

長谷川俊明「ひとりひとりの子どもたちの生活を高める」

山本哲賢「高校生のききとり調査」

八木満喜男「高校進学率を下げるな」

(資料)「京都における高校教育制度と同和教育」(資料)「

(同右)

《小特集》『全国教研』「人権教育」分科会と教育の自由

(同右)

桑原 律「研究」少年運動と部落子ども会(二)「(同右)

(資料)「『八鹿・朝来事件』判決をめぐる」(同右)

名越弘文「同和教育運動をめぐる各地の動き—広島県千代田町で  
おこったことと打開へのとりくみ」(同右)

(編集部)「教育・部落問題動向」(同右)

佐古田好一「綴方」同和教育と生活綴方」

(『月刊』の子も伸びる』八五号、5月)

東上高志「講座・同和教育の実践」同和教育——その継承と発  
展2」(同右)

石田眞一「連載・部落の青春——牛と人間」(同右)

重蔵憲太郎・岩切直次・島田茂生「高校生の自主的部落問題研究  
活動」(『解放の道』理論・政策・資料版)四号、5月)

《誌上シンポジウム——第二次教育制度検討委員会最終報告によ  
せて—『現代日本の教育改革』を検討する③「第二次報告」  
の各論を読む》(同右)

中野陸夫「『改革の理念』を読んで感じたこと」

玉置哲淳「子育ての共同化運動と保育政策」

園分一太郎「生態系への目ざめの立場から」

鈴木祥蔵「戦後民主教育と『教育臨調』」

(『社会啓発情報』一九号、6月)

上田敏幸「子を思う親たちの心に根ざして—吹田・保育所入所妨  
害事件レポート—」(『部落』四四五号、6月)

西端平吉「岡山県教委の『同和教育』への名称変更—その後—  
(同右)

佐古田好一「綴方」同和教育と生活綴方」(三)「

(『月刊』の子も伸びる』八六号、6月)

東上高志「講座・同和教育の実践」(第3回)同和教育——そ  
の継承と発展(三)「(同右)

石田眞一「連載・部落の青春——『家の光』」(同右)

村越末男「連載講座・学校でなぜ同和教育が必要なのか第三回—  
三大事件のはなし」(『学校運営研究』二八三号、6月)

前田一彦「小学校6年、自主教材『むら井戸』を使った部落問題

《第6回部落問題全学シンポジウム収録》

(『大阪教育大学教育研究所報』十九号、5月)

村越末男「連載講座・学校でなぜ同和教育が必要なのか第二回—  
今日も机にあの子がいらない—教育の差別的現実と次官通達まで  
の経緯」(『学校運営研究』二八二号、5月)

大阪同和保育連絡協議会「からだそだて入門」へ「同和」保育シ  
リーズ」(同上、6月)

部落解放子ども会大阪連絡協議会「総会討議資料 第11回」

(同上、6月)

近藤裕昭編『私にとって部落差別とは—同和教育レポート集』

(群萌社、6月)

全国同和教育研究協議会「全国同和教育資料1—同和教育の進  
展と人権擁護立法制定運動」(同上、6月)

東上高志「戦後同和教育の運動」へ東上高志著作集4

(あゆみ出版、6月)

岸本裕史「計算の力をきたえる」へ講座・岸本裕史の教育方法

③」(『部落問題研究所』6月)

中村弘三「ある視点」子どもたちが生き抜くために」

(『解放教育』一八〇号、6月)

別技篤彦「世界の教科書にみる『人権』の教え方」

山崎雅之「金庫の中の指紋」

金子マリーティン「『部落』で私は人権と生き方を学んだ」

山崎真秀「人権学習として憲法を学ぶ」

課題」(同右)

《特集》『教育改革』と「同和教育」

(『同和教育運動』二五号、5月)

大槻 健「今日の教育改革をめざすもの」

内堀隆夫・田中省司「子どもたちに自立の力を」

長谷川俊明「ひとりひとりの子どもたちの生活を高める」

山本哲賢「高校生のききとり調査」

八木満喜男「高校進学率を下げるな」

(資料)「京都における高校教育制度と同和教育」(資料)「

(同右)

《小特集》『全国教研』「人権教育」分科会と教育の自由

(同右)

桑原 律「研究」少年運動と部落子ども会(二)「(同右)

(資料)「『八鹿・朝来事件』判決をめぐる」(同右)

名越弘文「同和教育運動をめぐる各地の動き—広島県千代田町で  
おこったことと打開へのとりくみ」(同右)

(編集部)「教育・部落問題動向」(同右)

佐古田好一「綴方」同和教育と生活綴方」

(『月刊』の子も伸びる』八五号、5月)

東上高志「講座・同和教育の実践」同和教育——その継承と発  
展2」(同右)

石田眞一「連載・部落の青春——牛と人間」(同右)

重蔵憲太郎・岩切直次・島田茂生「高校生の自主的部落問題研究  
活動」(『解放の道』理論・政策・資料版)四号、5月)

《誌上シンポジウム——第二次教育制度検討委員会最終報告によ  
せて—『現代日本の教育改革』を検討する③「第二次報告」  
の各論を読む》(同右)

中野陸夫「『改革の理念』を読んで感じたこと」

玉置哲淳「子育ての共同化運動と保育政策」

園分一太郎「生態系への目ざめの立場から」

鈴木祥蔵「戦後民主教育と『教育臨調』」

(『社会啓発情報』一九号、6月)

上田敏幸「子を思う親たちの心に根ざして—吹田・保育所入所妨  
害事件レポート—」(『部落』四四五号、6月)

西端平吉「岡山県教委の『同和教育』への名称変更—その後—  
(同右)

佐古田好一「綴方」同和教育と生活綴方」(三)「

(『月刊』の子も伸びる』八六号、6月)

東上高志「講座・同和教育の実践」(第3回)同和教育——そ  
の継承と発展(三)「(同右)

石田眞一「連載・部落の青春——『家の光』」(同右)

村越末男「連載講座・学校でなぜ同和教育が必要なのか第三回—  
三大事件のはなし」(『学校運営研究』二八三号、6月)

前田一彦「小学校6年、自主教材『むら井戸』を使った部落問題

「学習」(『歴史地理教育』三六八号、6月)  
 小寺好「反差別・反選別の闘いとその論理―広島高教組の解放教育」(『月刊社会党』三三八号、6月)  
 副読本「にんげん」検討委員会「にんげん」教材と子どもの教育―教育現場からの批判」

(全解連・大阪府部落解放運動連合会、1984年1月)  
 東上高志「部落問題の授業」(あゆみブックレット14)

(あゆみ出版、1984年3月)  
 井上新二「わたしを解放するもの―“同和”教育の中でみつめたもの」(女子パウロ会、1984年3月)  
 人間に光あれ編集委員会「人間に光あれ―四国学院と部落問題」

〈人権と差別を考えるI〉(四国学院大学、1984年3月)  
 広同教白書専門委員会「子どもたちのくらし―自立と健康」

(広島県同和教育研究協議会、1984年3月)  
 大阪同和教育史料集編纂委員会「大阪同和教育史料集」第三卷

(部落解放研究所、1984年3月)  
 大阪府科学教育センター同和教育研究室「研究論文集」二号、

(1984年3月)  
 関西大学人権問題委員会「部落問題と大学」(関西大学部落問題資料(IV)17)(関西大学、1984年3月)

中村弘三「大学における解放(同和)教育の歴史(Ⅲ)」

(『同和研究資料』五号、近畿大学同和教育研究会、1984年3月)  
 近畿大学同和教育推進委員会「『コミュニケーション・カード問

題』に関する方針と対策」(同右)

大阪市教職員組合「なぜヒロシマか―修学旅行の見直しを」(同上、1984年)

【人権】

「障害児」の生活と教育を保障しよう市民の会大阪連合会生活部会「生活の場をつなぐ」(同上、4月)

V・T・ラージシェーカー著・いいだも編訳「ガンディーは何故暗殺されたか―ヒンドゥー・インドをゆるがす不可触民の声」(社会評論社、4月)

鎌田慧「死刑台からの生還―無実ノ財田川事件の三十三年」(立風書房、4月)

《特集》「発展途上国のスラムと社会変動」

(『アジア経済』二五巻四号、4月)  
 犀川一夫「転換期に直面するらひ園の内外―沖縄医療政策の変遷(抄)」(『解放教育』一七八号、4月)

法務省人権擁護局「統計表から見た人権擁護委員の概要」(『人権通信』一〇八号、4月)

日本弁護士連合会再審法改正実行委員会「日弁連再審通信」No.36(同上、4月)

蘇福姫「あるハンセン氏病在日朝鮮女性の歩いてきた道」(『在日朝鮮人史研究』十三号、4月)  
 若生みすず「神有電鉄工事の朝鮮人土工争議について」(同右)  
 宋連玉「大阪における解放前の在日朝鮮人の生活(1)」(同右)

(資料)「(1)社会科学院歴史研究所編『朝鮮全史』に記述された在日朝鮮人運動史」(同右)

(資料)「(2)山口県における在日朝鮮人の状況」(県知事事務引継書抜粋) (同右)

三浦恵司「男女雇用平等法の意義と課題」(『法律のひろば』三七巻四号、4月)

山上賢一「年金制度と障害者福祉の課題と展望」(同右)  
 土屋文昭「国籍法の一部を改正する法律案要綱について」(同右)

《特集》「地域に働きかける婦人の活動」

(『月刊社会教育』三二七号、4月)  
 銭本三千年「米国における障害児の就学権と適切な教育」

(『教育学論集』十号、大阪市立大学文学部教育学教室、4月)  
 沢田猛・渡辺幸重「無実の死刑囚・29年の叫び―島田事件・再審への道(中)」(『新日本文学』四三九号、4月)

浅野健一「〈連載第4回〉犯罪報道は変えられるか―フィンランドの報道評議会」(『マスコミ市民』一九〇号、4月)

法務省人権擁護局「資料」統計表からみた人権擁護委員の概要」(『人権通信』一〇八号、4月)

アムネスティ・インターナショナル「〈報告〉日本の死刑」(『世界』四六一号、4月)

奥出直人「『奴隷の文化』を肯定し始めたアメリカ―叫ぶニグロ』から『ささやくブラック』へ」

(『朝日ジャーナル』一三三三三号、4月)

芝実「人種差別に目をつむった南部アフリカの緊張緩和」(同右)

(編集部)「放置される大阪豊中『庄内西小学校』の姿」教育」(『週刊新潮』一四五三号、4月)

松岡三郎「パート労働―犯罪と差別の解消(連載・トビック労働講話④)」(『学習のひろば』二六六号、4月)

中島通子・津村明子「労働の基準の変革から社会変革の道へ―対談・雇用平等法論議の核心点」

(『季刊労働運動』三八号、4月)  
 五十嵐英明「男女平等化への問題提起として―連載『女性が進出する』を終えて」(『新聞研究』三九三三号、4月)

倉内節子「『雇用における男女平等法』について」(『月刊社会教育』三二七号、4月)

坂本福子「男女差別撤廃に逆行する婦少審『建議』―雇用平等法と労基法改悪」(『赤旗評論特集版』三六二号、4月)

総理府広報室「婦人の就業」(『月刊世論調査』一七九号、4月)

チカupp美恵子「私は、生きたアイヌである」(『新地平』一一三三三号、4月)

全国婦人の集い実行委員会「男女の平等をめぐって自立・連帯・行動―中央集会プログラム」(同上、5月)

全国婦人の集い実行委員会「男女の平等をめぐって自立・連帯・行動―第25回婦人の集いテキスト」(同上、5月)

佐野洋・西嶋勝彦「死刑が無罪か―えん罪を考える」(『岩波』

ックレットNo.33 (岩波書店, 5月)

齋藤恵彦『世界人権宣言と現代—新国際人道秩序の展望』

(有信堂高文社, 5月)

ニコラス・バルティコス『国際労働基準とILO』

(三省堂, 5月)

先田 栄『先田栄獄中記』(社会思想社, 5月)

福島正夫編『家族—政策と法』(近代日本の家族—政策と法6)

(東京大学出版会, 5月)

山本冬彦『国際人権規約と在日外国人の人権』

(『部落解放研究』三九号, 5月)

『転換期に直面するらい園の内外』

(『解放教育』一七九号, 5月)

内田フミエ『愛生園の想い出』

菊池 盈『『頼園』死の今昔』

黒田了二『いま考えよう人権と平和—世界人権宣言35周年に想う』

(上) (『解放の道』(理論・政策・資料版)四号, 5月)

堀 正嗣『『障害児』教育における別学と統合の論理』

(『研究紀要』一号, 乳幼児発達保障研究所, 5月)

『特集』『エスカップ地域準備会議』

(『あいふおーらむ』二二号, 5月)

大羽綾子・久保田真苗・原田貞『〈てい談〉エスカップ政府

間会議と民間婦人団体』

『特集』『国連・一九八三年』(『海外事情』三二巻五号, 5月)

齋藤恵彦『人権尊重と人種差別禁止』ほか

『特集』『権利後進国ニッポン』

(『月刊労働組合』二〇六号, 5月)

中山和久『ILO条約と日本の労働者』

柴山恵美子『世界の男女雇用平等』ほか

『特集』『性風俗犯と環境浄化』

(『法律のひろば』三七巻五号, 5月)

『特集』『いま問う、女性の雇用』

(『女子教育もんだい』十九号, 5月)

笠原郁子『正念場を迎えた雇用平等法』

金城清子『婦人差別撤廃条約批准と雇用問題—人間らしく働

くことをめざして—』

松岡三郎『労基法と日本の女子労働』

小泉美英子『進路指導と女子労働』

司会・柴山恵美子『座談会・変わりゆく女性労働の現場』

『特別企画・財田川事件無罪判決』

(『法字セミナー』三三三三号, 5月)

鎌田 慧『死刑台からの生還へ独占インタビュー』(谷口繁義

氏に聞く)』

庭山英雄『崩壊した『自由の構造』財田川再審無罪判決の意

義』

白取清三郎『熱血老弁護士・矢野伊吉との邂逅と思い出』

『特集』『涉外身分問題』(『自由と正義』三五巻六号, 5月)

金城清子『氏と国籍—国籍法改正にもなう戸籍法改正と夫

婦別氏への展望—』

伊東すみ子『接触法における両性平等をめぐる—現行法例

の問題点—』

後藤明史『国籍法改正の動向』

(資料)『日弁連の動き—国籍法の一部を改正する法律案要

綱案に対する意見書』

久保田洋一『国連人権委員会と市民・民間団体』(同右)

(資料)『改訂された個人情報保護モデル要綱』

(『地方政治』二九〇号, 5月)

浅野健一『〈連載第5回〉犯罪報道は変えられるか—精神障害患

者の匿名は—』(『マスコミ市民』一九一号, 5月)

横田耕一『有害図書規制と表現の自由』

(『新聞研究』三九四号, 5月)

倉田哲治『開かずの門』は手弁当で開くしかないのか—再審の

実態を無視した費用補償制度』

(『朝日ジャーナル』一三二〇号, 5月)

神原胖夫『レーガン政権下で拡大する貧困—大きすぎた『経済実

験』の犠牲』(『エコノミスト』二五六七号, 5月)

沢田 猛・渡辺幸重『無実の死刑囚・29年の叫び—島田事件・再

審への道(下)』(『新日本文学』四四〇号, 5月)

喜多村和之『『国際化』のなかの大学—『任期つき』の外国人

専任教授』(『UP』一三九号, 5月)

ステファン・M・コズロー『米国の雇用差別禁止法の概要—米國

で事業を展開する日本企業の紛争回避のために—』

(『NBL』三〇四号, 5月)

(資料)『イタリヤ共産党の婦人問題テーゼ—婦人—それは『民

主的代案』構想に不可欠の中心的な政治的主体』

(『世界政治—論評と資料』六六八号, 5月)

『特集』『朝鮮語とはどんなことばか』

(『季刊千里』三八号, 5月)

中村 完『朝鮮語という言語』

渡辺吉鎔『朝鮮語の言いまわし』

梁永厚『植民地期『朝鮮語読本』の系譜』

高崎宗司『十五年戦争下、朝鮮語の試練』

大村益夫『大学の朝鮮語教育の現状』

高島淑郎『朝鮮語を学ぶために』

矢作勝美『『NHKに朝鮮語講座を』運動の八年』ほか

好指教拒否裁判』(同上, 6月)

生野オモニハッキョ『オモニたちの文集』No.2(同上, 6月)

佐藤秀郎『最後の大冤罪—船越坂は何を見たか』

(現代史出版会, 6月)

大阪市外国人教育研究協議会『サラム 生活編1』

(ブレンセンター, 6月)

佐藤文明『戸籍がつくる差別—女性・民族・部落・そして『私生

児』差別を知っていますか』(現代書館, 6月)

婦人労働研究会『女性が働くとき—保護と平等と』

(未末社、6月)  
 平塚らいてう著作集編集委員会『平塚らいてう著作集第7巻―私は永遠に失望しない』(大月書店、6月)  
 ≪転換期に直面するらいてうの内外≫

『解放教育』一八〇号、6月)  
 川野 順「招かれて母国へ」  
 島比呂志「私の勲章―検閲と言論の自由」

ロジャー・ヨシノ「アメリカにおける日系人差別と強制収容所」  
 (『部落解放』二二五号、6月)

銭本三千年「書評『障害者に関する報道改善をめざして』」  
 (『社会啓発情報』一九号、6月)

金東 勲「人種差別撤廃条約批准のために②―第二条、国・地方公共団体および個人または集団による差別の撤廃と禁止」  
 (同右)

≪男女平等と労働組合運動≫ (『労働年鑑』八) ≪経済評論別冊・労働問題特集号7≫、6月)  
 中島通子「真の男女雇用平等法を求めて」

柴山恵美子・大須賀啓子・徳茂万知子・金田麗子「座談会」  
 男女平等化と労働組合運動の革新

永峰幸三郎「パート労働の現状と組織化の要点」  
 久保田洋「国連の人権保障とNGOの役割」

(『ジュニリスト』八一六号、6月)  
 原後山治「国連人権小委員会でのサハリン残留朝鮮人問題を発言して」(『自由と正義』三五巻七号、6月)

日本国際連合協会「第三次開発の十年の検討・評価―国連事務総長の報告から」(『月刊国連』六三巻五号、6月)  
 浅野健一「連続第6回」犯罪報道は変えられるか―なぜ実名報道にこだわるのか」(『マスコミ市民』一九二号、6月)  
 塩田庄兵衛「松川事件35周年にあたって―大塚一男著」松川弁護14年」後藤昌次郎著『裁判を闘う』  
 (『エノノミスト』二五七三号、6月)

(資料)「(判例紹介・特報)財田川事件再審無罪判決―死刑確定者に対する再審公判において、自由の真実性に疑いがある等として無罪を言い渡した事例」  
 (『判例タイムズ』五二三号、6月)

生方幸夫「秋田県警免許証偽造事件―コンピュータ個人情報書きかえの気味悪さ」(『朝日ジャーナル』一三二四号、6月)  
 樋口範雄「人種差別を行う宗教系私立学校への免税の是非」  
 (『ジュニリスト』八一六号、6月)

荒 松雄「内なる比較文化論」パリのアラブ人」  
 (『図書』四一八号、6月)

奥山明良「アメリカに見る労働環境と性差別―性的いやがらせ(Sexual Harassment)と公民権法第7編(The Title VII)」  
 (『判例タイムズ』五二三号、6月)

川本地平「外国人指紋登録制は警察のためか」  
 (『朝日ジャーナル』一三二三号、6月)

売春問題ととりくむ会「国連経済社会理事会売春問題報告書―婦人の地位向上活動 平等・発展・平和」

(同上、1983年9月)

国際連合広報センター『国際連合16フィルム・リスト』  
 (同上、1983年10月)

国際障害者年推進会議『国際障害者年国連・海外関係資料集』  
 (全国社会福祉協議会、1983年11月)

読売新聞社外報部『拒否された個人の正義―日系米人強制収容の記録』(三省堂、1983年11月)

飯沼一郎『見えない人々―在日朝鮮人』増補改訂  
 (日本基督教団出版局、1983年12月)

津野田真蓮子『マリコにのこされ―障害者の女が街で生きる時』(十書房、1983年12月)

東京三弁護士会合同代用監獄調査委員会『ぬれぎぬ―こうして私は自由をせられた』(青峰社、1984年1月)

山口博一「インド政府『後進諸階級委員会報告書』の研究」  
 (『アジア経済』二五巻一、二、1984年1月)

土井たか子編『「国籍」を考える』  
 (時事通信社、1984年2月)

財団法人現代人形劇センター『沖繩の人形芝居「京太郎」の研究』  
 (同上、1984年2月)

李君・孫君を囲む会「李君・孫君を郵便外務職へ―郵便外務職差別「国籍条項」撤廃にむけて」(同上、1984年3月)

部落問題研究所『人権の発展と部落問題』  
 (部落問題研究所出版部、1984年3月)

『ひびく』指の自由「編集委員会」『ひびく』指の自由―外国人登

録法・指紋捺捺拒否を闘う』(社会評論社、1984年3月)  
 全国部落解放運動連合会『国際的人権保障と全解連―人種差別撤廃第2回世界会議』≪全解連ブックス№2≫  
 (同上、1984年3月)

山田丈夫「文字を私に―夜間中学校からの問いかけ」  
 (歩牛舎、1984年3月)

≪特集≫「近代社会における人権問題の研究」(『社会科学』三三三号、同志社大学人文科学研究所、1984年3月)  
 井ヶ田良治「日本人は裁判ざらいの神話」について―日本人の法観念の歴史的研究のために」

大竹秀樹「少数者の保護と人権専門委員会―S・ラブレイス事件より」ほか  
 ジェームズ・P・グラント『世界子供白書 一九八四』  
 (ユニセフ(国連児童基金)駐日事務所、1984年)

【社会啓発】  
 広島商工労働部・公共職業安定所「雇用と同和問題」  
 (同上、4月)

大阪市人権啓発推進協議会「区における人権啓発推進活動 昭和58年4月1日〜昭和59年3月31日」(同上、4月)

鳥根県公共職業安定所「採用選考―就職の機会均等」  
 (同上、4月)

徳島県同和对策推進会「展望―同和問題を早期解決するために」  
 (同上、4月)

池田孝雄「部落問題をめぐる青年の意識についての一考察」

(『解放の道』〈理論・政策・資料版〉三号、4月)

窪田享信「嫌でも文章は一人歩きを—投稿—伊藤友宣さんへの手紙」(『少年補導』三三七号、4月)

伊藤友宣「自分を含みすべての人々の……—窪田享信さんへの返信」(同右)

静岡県民生部「みんなの幸せをもとめて—差別をなくすために」

(同上、5月)

長野県社会部「就職の機会均等の確保のために—正しい採用選考の実現をめざして事業主・人事担当者の理解のために」

(同上、5月)

豊中市人権教育推進委員協議会『豊中市人権協総会報告 昭和59年度』(同上、5月)

部落解放研究所『部落解放の歩み(戦後編)—学習の手引き』(同上、5月)

石川県商工労働部職業安定課『企業内同和研修資料—事業主・人事担当者の理解のために』(同上、6月)

広島県豊後町『同和問題』についての意識調査報告書』(同上、6月)

広島県豊後町『同和問題』についての意識調査統計表』(同上、6月)

北九州市同和問題啓発推進協議会『企業と同和問題』

(同上、6月)

北九州市同和問題啓発推進協議会『働く私たちと同和問題』

(同上、6月)

福岡市企業同和問題推進協議会『福岡市企業同和問題推進協議会総会資料 昭和59年度』(同上、6月)

部落解放大学第12期生自治会『部落解放大学講座12期受講生のしおり』(部落解放研究所啓発企画室、6月)

仲島隆夫「同和教育と市民啓発」

(『社会啓発情報』一九号、6月)

香野貞人「連載・企業研修の課題—差別と企業組織」(同右)

平野一郎「出会い・部落解放の人間像」(同右)

西岡 智「私と部落解放運動(2)—住宅要求期成同盟を結成」(同右)

磯村英一「今後における啓発活動のあり方について(意見具申)」(『人権通信』一〇九号、6月)

横島 章「同和問題の解決のために(上)」(同右)

全国部落解放運動連合会「自由で民主的な啓発について」(『解放の道』〈理論・政策・資料版〉二号、1984年3月)

野口道彦「部落への意味付けの諸類型と差別意識との関係」(『同和問題研究』七号、大阪市立大学同和問題研究室、1984年3月)

### 【文化・思想】

土方 鉄「反差別に生きる人びと」(明石書店、4月)

大橋志雄「民話の「虚」と「実」—真に伝えたいこと」

(『文理閣』4月)

革の会『革』二巻二号、(同上、4月)

《みんなで作る文化のページ》(『部落解放』二二二号、4月)

文・川元祥一・絵・井上洋介「創作・部落の昔ばなし—河原の三言」(『解放教育』一七八号、4月)

岡庭 昇「(時評・文芸)いま再び『差別』を問う—正しい意識は正しい人物によって証明されるか。」

(『図書新聞』三九五号、4月)

用語問題特別取材班「拡大する放送禁句第8弾—『名酒クイズ』から『竜馬がゆく』まで」(『放送レポート』六八号、5月)

北川鉄夫「日本文学にえがかれた部落問題素描」(『歴史評論』四〇九号、5月)

小笠原克「『青年の環』野間宏—《家》の問題・序」(『国文学—解釈と鑑賞』四九巻六号、5月)

日野範之「図書紹介/部落解放同盟中央本部編『うち、字かけたんよ』」(『解放教育』一七九号、5月)

塩見肇一郎『都市社会と差別』(れんが書房新社、6月)

水上 勉『良寛』(中央公論社、6月)

《みんなで作る文化のページ》(『部落解放』二二五号、6月)

文・川元祥一・絵・井上洋介「創作・部落の昔ばなし—与七と丸山の子犬」(『解放教育』一八〇号、6月)

江藤巧也「連載・差別者の群れの中に」(同右)

柏井宏之「上からのくまじりくく民衆の対抗—『大阪築城400年まつり』の場合」(『新日本文学』四四一号、6月)

石飛 仁「連載・現代民衆俳優考—三国連太郎の白い道—差別

の根源にせまる独白のたたかひ」(『新地平』一一四号、6月)

西田秀秋「西田秀秋脚本集」〈高校演劇叢書第12巻〉

(門土社総合出版、1983年11月)

村崎義正「猿まわし上下ゆき」(筑摩書房、1983年12月)

### 【宗 教】

窪田享信『おだてられて—私の「親鸞」と人権』(願林寺、4月)

日本キリスト教団部落解放センター「解放へのかけ橋—ルイス・グリヤの歩み」(日本基督教団出版局、5月)

木津 謙「歴史家の責任と差別戒名—成沢米寿氏の誤解と偏見—」(『部落解放研究』三九号、5月)

小森龍邦「仏教における業思想と部落解放理論」(『部落解放』二二四号、5月)

三国連太郎「わが煩惱の火はもえて—親鸞へいたる道」(光文社、1984年1月)

### 【通 史】

『郷土の歩み』編集委員会「郷土の歩み 第十六号」

(同上、4月)

《特集》「原田伴彦先生の逝去を悼む」

(『部落解放』二二二号、4月)

奈良本辰也・山本 登・上杉佐一郎・村越末男・司会 谷口

修太郎「座談会」人・原田伴彦さんを偲んで」

会田雄次ほか「伴彦」(ハンゲン)さんの思い出」



生瀬克己「原田先生の日本史研究について」  
原田百子「家の中での『お父さん』」  
〈グラビア〉「おちし日の原田先生」  
《特集》「部落史研究の到達点と課題」  
(『部落』四四三号、4月)

きき手・奥山隆夫「『部落の歴史』(全三巻)の刊行と今後の課題——脇田修氏に聞く」  
三浦圭一「『部落の生活史』について」

藤本清二郎「『部落』成立史研究の成果と問題点——成立の時期・内容・実証——」

渡辺 広「権威——『部落の歴史』(全三巻)を読んで」  
丹波正史・瀬川負太郎・栗原省・菅原辰蔵「『部落の歴史』全三巻の完結によせて」

南部吉嗣「『部落の歴史』から学ぶこと、今後を期待すること——歴史教育の立場から——」

木下 浩「越後・佐渡をめぐる研究」

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる——あるインテリの自伝的歴史

——(12) 考える若者」(同右)

佐伯 洋「部落問題との出会い——子どもらのひとみ輝け」

(同右)

長谷川善計「北原泰作——その人と思想——(下)」

(『月刊部落問題』八九号、4月)

部落問題研究所「部落問題の歴史的研究」〈中西義雄部落問題著作集1〉(同上、5月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる——あるインテリの自伝的歴史——(13) 学問自由の発見」(『部落』四四四号、5月)  
青木孝寿「部落問題との出会い——痛恨の遺書」(同右)  
のびしょうじ「連載2」撰津風呂谷の歴史」  
(『月刊部落問題』九〇号、5月)

《井元麟之・元全国水平社書記局長を偲ぶ》

(『部落解放』二一五号、5月)

渡部 徹「井元先生と全国水平社」

〈井元さんの思い出〉

梶原幸子「厳しく優しくあった井元館長」

草香一介「兵(つづもの)を偲ぶ」

阪本清一郎「もういつべん九州を回りたい」

清水喜久「巧みな話術と絶妙の指導性」

住田利雄「井元さんをしのびて」

田中松月「井元さん嗚呼井元さん」

寺本 知「井元さんと『破戒』の想い出」

西尾紀臣「井元さんの思い出」

濱本百太郎「差別への憎しみと人間的優しさ」と

原口頼雄「闘いの生を生き抜かれて」

米田 富「全水解除提案高松事件で活躍」

山本政夫「無二の親友をなくして」

〈グラビア〉「井元麟之さんを偲ぶ」

(資料)「井元麟之路歴」

佐々木一行「悼・解放教育の先駆者——西口敏夫先生の御前に捧

ぐ」(同右)

石川一雄「西口おやじさん——再審闘争を見守っていただくら」

(同右)

中村弘三「(追悼・故原田伴彦氏を悼む) 原田さんと部落問題の

間——そこで何が築かれてきたのか——」

(『部落解放研究』三九号、5月)

加藤昌彦「故井元麟之大先輩のこと」

(『解放教育』一七九号、5月)

木下重太郎・乾 武俊「〈グラビア〉むかしの写真が出ています

①——一九三〇年代・大阪両国」(『部落解放』二二四号、5月)

木下重太郎・坪井和子「むかしの写真が出ています——一九三〇年

代・大阪両国」(同右)

故井元麟之さんを偲ぶ集い実行委員会「冬来りなば春遠からじ」

(同上、6月)

小林 茂編「人権のあゆみ」(山川出版社、6月)

磯本恒信「長崎の風土と被差別部落史祖考」増補版

(部落解放同盟長崎県連合会・長崎県部落史研究所、6月)

石田真一「中西義雄氏を悼む」(『部落』四四五号、6月)

馬原鉄男「戦後部落解放運動とともに——中西義雄氏の生涯——

(『部落』四四五号、6月)

のびしょうじ「〈連載3〉撰津風呂谷の歴史」

(『月刊部落問題』九一号、6月)

のびしょうじ「判官記第四部『曉雲』第三章」

(『部落問題——調査と研究』五十号、6月)

鈴木裕子「部落解放と部落史研究のために(1)」

(『新地平』一一四号、6月)

《追悼・宮本筆吉さん》

(『東京部落解放研究』三八号、1984年3月)

山本 登「(追悼) 原田先輩をしのぶ」(『同和問題研究』七号

大阪市立大学同和問題研究室、1984年3月)

追悼集会実行委員会「故西口敏夫先生をしのぶ」

(同上、1984年)

### 【前近代】

森 杉夫「じんげん——被差別の年貢負担」

(藤井寺市人権啓発推進協議会、4月)

土方 鉄「古代賤民のイメージ——『京都の部落史』第三巻から」

(『こころ』七六号、4月)

丹波正史「部落の生活史21——誇り高き藤内医者」

(『部落』四四三号、4月)

寺木伸明「近世大阪の部落寺院について——その来歴と本末関係を

中心として」(『日本近代の成立と展開』所収、思文閣、4月)

和気紀於「被差別部落の大騒動——武州鼻緒騒動記」

(明石書店、5月)

のびしょうじ「文庫『兵庫の部落史第2巻——転換期の賤民構造』

(神戸新聞出版センター、5月)

原田伴彦編「編年差別史資料集成 第二〜四巻 古代編二・中世

編一〜二」(三一書房、1983年11月〜5月)

河田光夫「親鸞と『大神人』(上)」

(『こべる』七十七号、5月)

川嶋将生「山水河原者」(同右)

網野善彦・馬田綾子・大山喬平ほか「ハシンプジウム」中世身分制の研究状況と課題」(『部落問題研究』七八号、5月)

峯岸賢太郎「部落の生活史22—弾左衛門の経済支配とその動揺」

(『部落』四四四号、5月)

脇田 修「一九八三年の歴史学界—回顧と展望 日本・近世17」

(『史学雑誌』九三編五号、5月)

塚田 孝「三都の非人と非人集団(一九八四年度大会にむけて—

〈近世史部会〉近世における社会集団と民衆)」

(『歴史学研究』五二八号、5月)

塚田 孝「中世—近世移行期の関東における賤民制について」

(『関東近世史研究』十六号、5月)

金森正也「秋田藩城下町久保田の『町穢多』について」

(『民衆史研究』二六号、5月)

塚田 孝「近世関東における被差別部落民の身分呼称について

—「鈴木家文書」より」(同右)

河田光夫「親鸞と『大神人』(下)」(『こべる』七八号、6月)

横井 清「犬狩」(同右)

研究部会(前近代)「史料解説」層者重宝記(完)」

(『部落問題—調査と研究』五十号、6月)

寺木伸明「浅科村社口地区のおこり—新史料の紹介を兼ねて」

(『信州農村開発史研究所報』十号、1983年10月)

信州農村開発史研究所「水と村の歴史」〈信州農村開発史研究所

紀要第二号〉(同上、1984年1月)

後藤文利「『聖』と『俗』の日本史」(『同和研究資料』五号、

近畿大学同和教育研究会、1984年3月)

本田 豊「史料—日本の賤民由来書(第一回)—室町中期成立と

みられる信州小山の『掟』」

(『東京部落解放研究』三八号、1984年3月)

川元祥一「部落・農民・国家の関係」(同右)

河田光夫「中世被差別民の装い」

(『京都部落史研究所紀要』四号、1984年3月)

山本尚友「新青屋考」(同右)

宇那木隆司「散所についての一考察」(同右)

本田 豊「被差別部落形成伝承譚第七回—白山様が降ってきた町

(上) 埼玉県川越市で」

(『東京部落解放研究』三八号、1984年3月)

### 〔近現代〕

小林 茂「じんけん—部落解放運動のいばらの歩み・戦前を中心

として」(藤井寺市人権啓発推進協議会、4月)

植木 等「夢を食いつづけた男—おやじ徹誠一代記」

(朝日新聞社、4月)

山本藤政「土方鉄・対談シリーズ・2—小作組合から水平社運

動」(『解放教育』一七八号、4月)

秋定嘉和「部落史周辺(3)」(『こべる』七六号、4月)

青木孝寿「解放令研究の到達点」(『部落』四四三号、4月)

部落解放研究所「部落解放皮革関連事業組合十年の歩み」

(『部落解放皮革関連事業組合』5月)

井元麟之「土方鉄・対談シリーズ・3—部落解放運動の戦後の出

発」(『解放教育』一七九号、5月)

和定嘉和「部落史周辺(4)」(『こべる』七七号、5月)

高橋 啓「(紹介)高市光男編著『続・愛媛部落史資料』」

(『部落問題研究』七八号、5月)

藤野 豊「神奈川県和運動史年表(5)—一九三七—一九三八

年」(同右)

秋定嘉和「部落史周辺(5)」(『こべる』七八号、6月)

白石正明「兆民の出会った被差別民たち」

(『中江兆民全集第十一巻・月報八』所収、6月)

黒川みどり「(史料・文献紹介)帝國公道会『公道』(復刻)

(第一巻・第二巻)」(『歴史学研究』五二九号、6月)

藤野達善「地下水脈」(藤野教育問題研究所、1983年7月)

小林 実『さへひめ解放戦士の面影を追って』

(同上、1984年2月)

八箇亮仁「崇仁融和教育の形成」

(『京都部落史研究所紀要』四号、1984年3月)

白石正明「(史料紹介)上田静一日誌」(同右)

速瀬愛子『高知県における被差別部落の教育』(Ⅳ)—旧香美郡山

田・前浜、安芸郡野根・佐喜浜における地区の概況と就学状況

について 明治・大正期』(『高知県教育センター紀要 昭和

58年度』二〇号、1984年3月)

菅 孝行「日本の近代と水平社運動」

(『東京部落解放研究』三八号、1984年3月)

大串夏身「東京の部落の歴史と解放運動」(同右)

大串夏身「全国水平社に関する新聞記事索引(4)—全国水平社と日

本労働運動 補遺・原資料編」(同右)

割石忠典編「部落解放同盟広島県連合会青年部活動方針集」

〈部落解放運動基礎資料集Ⅱ〉

(福山部落解放研究会、1984年3月)